



元通信兵が語り継ぐ 空母信濃の悲劇

木村昇吉 さん ー上原町ー



海兵服姿の木村さん(本人提供)

戦況厳しい昭和19年11月19日、旧海軍が全ての資材を投入した空母「信濃」が竣工。当時世界最大の規模を誇り、戦局挽回の願いが託されましたが、広島呉の海軍工廠への回航途中、米潜水艦の魚雷に沈められました。戦後78年の時を超えた今、通信兵として乗船していた木村昇吉さん(95)が、上原町有志が主催するおもしろ上原塾で講演しました。

ー 通信兵として乗船 ー

「魚雷の1つや2つで沈んだりしないよ」。

昭和19年11月28日午後1時32分、3隻に護衛されながら、約2,500人が乗船した信濃は横須賀を離れました。午後7時頃、太平洋を南下。通信兵で17歳の木村さんは、2時間当直、4時間の休憩を繰り返して、2度目の当直のとき、米潜水艦レーダーが信濃に反応しましたが、米は追いつけずに諦めた様子でした。

ー 魚雷命中 あっという間の沈没 ー

29日午前3時過ぎ、信濃は米潜水艦らしき影を発見。しばらくして「ズドン」という衝撃を受け、魚雷6発のうち4発が信濃に命中しました。暗くて飛行機が飛ばせないため、乗組員は傾く信濃にしがみつことしかできませんでした。

波のうねりで、2,000人余りが一気に海へ放り出されました。木村さんは立ち泳ぎをしながら、流れてくるスノコにやっとつかまり、3隻の護衛船に流れ着くとロープを投げられ引き上げられました。「助けられない人の叫び声を今でも覚えている」と振り返ります。総員退去命令から約30分。信



おもしろ上原塾での講演。信濃の模型などを使って当時の様子を説明する(5/16上原町区民館)

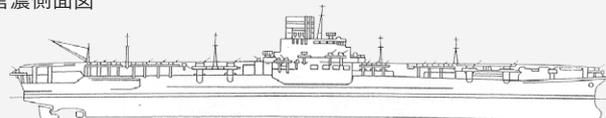
濃は同日午前10時57分、紀伊半島潮岬沖合にゆっくりと沈みました。竣工から沈没まで艦命わずか10日間でした。

ー 地域に残す 戦争の記憶 ー

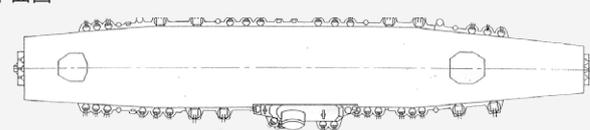
木村さんは生存者約1,000人と小さな島にたどり着きました。昭和20年4月1日、横須賀に召集がかかり木村さんは通信隊の送信課勤務に。終戦を迎え、9月1日に故郷へ帰りました。

講演では、信濃の模型や航海の経路が描かれた模造紙などを使って説明。木村さんは「生き残った人たちはほぼ亡くなり、信濃組員で組織する信濃会は数年前に解散した」と話します。参加者は情景を想像しながら、熱心に聞き入りました。

信濃側面図



平面図



長さ 256.5m	基準排水量 62,000t	速力 27ノット
幅 36.3m	公試排水量 68,060t	航続距離 1万マイル
飛行甲板の幅 40m	満載排水量 71,890t	軸馬力 15万馬力
平均喫水10.3m	重油満載量 8,904t	搭載飛行機 47機

核兵器廃絶平和都市宣言 昭和61年3月20日制定

私たち沼田市民は、何よりも大切な平和を守り、人間性豊かなまちづくりを目指しています。しかし、今なお核兵器は、私たちにとって深刻な脅威となっています。私たちは、すべての核兵器の速やかな廃絶を求め、真の永久平和が実現することを願い、ここに「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

沼田市民憲章 昭和58年9月10日/告示第35号

わたしたち沼田市民は、なによりも大切な平和を守り、人間性ゆたかなまちづくりをめざして、ここに憲章を定めます。

- 1 みどりを育て、美しいまちをつくります。
- 1 産業をおこし、活力あるまちをつくります。
- 1 ふれあいを大切に、あたたかいまちをつくります。
- 1 郷土を愛し、文化のかおり高いまちをつくります。
- 1 きまりを守り、住みよいまちをつくります。

1分間の黙祷を捧げましょう



- 広島原爆投下 8月6日(日) 午前8時15分
 長崎原爆投下 8月9日(水) 午前11時2分
 戦没者追悼 8月15日(火) 正午